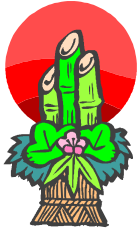


岸 高明の市議会だより

岸 高明の会 事務所 茅ヶ崎市新栄町7 - 1 岸ビル6F
 ホームページ <http://homepage3.nifty.com/takaaki-kishi/>

総務常任委員

議会運営委員



新年、明けまして おめでとうございます

昨年の市会議員選挙では、大勢の方のご支援を頂き、上位で当選させて頂きました。あらためてお礼を申し上げます。

議員になってみると、予想以上に忙しい日々が多かった8ヶ月間でした。

議員になり初めての6月本会議では、いきなりトップバターで一般質問するという貴重な経験もいたしました。

12月の本会議においても一般質問を行い、市民や関係者の方に、何らかの問題提起とアイデアの提案が出来たのではと自負しています。

新人議員ですから、少しでも余計に勉強しようと努め、担当以外の委員会、研究会、視察などにも積極的に出席・参加してきた昨年でした。

今年一年、皆様の期待に応えられるよう、日々一所懸命、市政に取り組むつもりです。よろしくお願いたします。



地方自治体の裁量が多くなる分、地方自治体の責任は非常に重くなります。今までは、国が全国津々浦々まで、補助金などを使いあれやこれやと自治体を誘導してきました。そのため自治体自らが主体的に政策などを立案しなくても、何とかあった面もありました。

しかしこれからは、自治体自らが地域の実情に合わせた優れた企画をたて、実施して行く必要があります。自治体間競争が現実化します。

市長・職員や議員の能力向上はもとより、市民参加のもと、市長・職員と議員と市民の関係がより高いレベルで、まちづくりに参加する必要があります。

映像配信委員会

茅ヶ崎市議会の様子は、本議会、委員会が傍聴可能な他、印刷物の議事録、市ホームページでの議事録、市発行の議会だよりで知ることが可能です。

映像により本会議を配信できないか、議長の諮問機関として、映像配信委員会を立ち上げ検討中です。私も委員です。画像関係の開発に従事して来た者としては、インターネットを使った最先端技術に興味があります。

しかし、もっとも大事な事は、最小の予算で市民に的確な情報を伝えるシステムは何かを探しだす事だと思っています。



平成16年度の茅ヶ崎市予算

この3月議会で平成16年度の茅ヶ崎市予算が審議されます。平成15年度の予算は、私が議員になる前、添田前市長が骨格予算をたて服部市長に引きついたものでした。

平成16年度予算が服部市長にとって初めての予算案であり、私が審議する初めての予算となります。

三位一体改革

国と地方の三位一体改革(税財政改革)が3年計画で進められ、今年がその最初の年になります。景気変動の影響を受ける市税収入などを考慮し予算を組みますが、三位一体の税財政改革の成り行きには、特に注意を払う必要があります。

「三位一体改革」は、国と地方の関係をこれまでの中央集権から地域主権を基本とするものに抜本的に改革し、地域の自立と競争によって個性と活力ある地域を創生するという、まさに「国のかたち」に関わる大事業です。

開高健記念館 嬉しい見込み違い

平成15年4月4(金)にオープンした開高健記念館の昨年度来場数が、当初の見込みを上回る10,000人以上になることは確実です。

開高健さんは、ラチエン通りの南端の海に近い自宅から通りのお店のあちらこちらに立ち寄り、東海道線の異人館踏切近くの林水泳教室まで、歩いて通っていました。

教室には50才から亡くなるまで通い。最初はバタ足10mから始め最終的に3000mは軽く泳げるようになっていたとのこと。今でも林水泳教室には氏から贈られた実物大の巨大なパネルが飾られています。

ラチエン通りのあちらこちらのお店に、氏とのふれあいが残されています。

平成15年12月議会 一般質問より

<要約文です。全文・正式文書は議事録を>
<地図は位置を説明し、おおよその距離・面積です>



相模川河畔スポーツ公園の移転

問 現在、新湘南バイパスは柳島の箇所で終点となっている。この道路は二期工事の途中で、平塚側の用地買収はほぼ終わっている。柳島から平塚方面に道路を伸ばすと、湘南シーサイドカントリークラブのゴルフコースの一部が道路に当たり収用され、不足した分のゴルフ場を相模川河畔スポーツ公園へ移し、スポーツ公園を、他の場所に移すのだと、私は認識している。

ゴルフ場ではなく、茅ヶ崎市のスポーツ公園が、なぜ他の場所に移らねばならないのか。

市長 国道134号線ならびに国道1号線の渋滞緩和と通過交通の排除を図り、道路沿線の住環境の改善のため、

新湘南国道の道路整備の早期完成に向け、市が積極的に協力する必要がある。この8月に国・県から公園移設について正式に要望があり、それらについて回答をした。

問 平成15年の3月議会で、前市長が公認の陸上競技にするという意味の答弁をした。移転先の施設内容はどのようになるか。

市長 400mの公認陸上競技場トラックや、フィールド内にサッカーグラウンド等、管理施設、駐車場スペース等の付帯設備も必要と考えている。

問 移転先は汐見台近くの県の淡水化プラント跡地と周辺を候補としてっていると聞いている。どの位の面積を想定しているのか伺う。

市長 県立湘南汐見台公園約1.5ha、臨海研究施設の跡地1.5haを中心とした用地を整備拡充し、代替施設として整備できるかどうか、国・県・市において調査研究をし、関係機関と調整している。

問 相模川河畔スポーツ公園では国から無償で土地を借りているが、移転先でも無償か。

市長 国有財産法に基づき、国との事前協議の中では、3分の1は無償、3分の2は有償であると国から現在回答を頂いている。



問 相模川河畔スポーツ公園の造成などは湘南シーサイドカントリークラブから昭和43年頃に寄付され、事務所などは茅ヶ崎市が費用負担したと聞く。国からの補償額はどの位になるのか。

市長 移設施設については現在使用している施設を現状で査定し、補償費が算定される。具体的にはゴルフ場を含め、移設の内容が整った後になると思う。

問 相模川河畔スポーツ公園の移転で、空白期間が生じ、市民がスポーツする場所が一時的に無くなることはないか。

市長 移転先の整備が終わらないうちは、中島のスポーツ公園は閉鎖しないことを条件に、国と交渉している。

問 平成14年、相模川河畔スポーツ公園では陸上競技場の利用回数は2回しかなかった。公認陸上競技場



になり競技回数が増え、フィールドで行うサッカーが出来る回数が減るという事はないか。

教育長 各競技団体にはお互い譲歩をお願いすることもあるかと思う。

問 国の事業のしわ寄せが、茅ヶ崎市に来ているようだが、いかに考えているのか。

市長 担当している部局も、また財政部局も、この問題に関して市が大きな負担を強いられることのないように、今後、国、県としっかりした交渉をしてみたいと思っている。

ごみ出し日 お知らせメールについて

問 この秋、総務常任委員会の視察で金沢市を訪問した時に、“メールでお知らせ！！あなたの町の、ごみ出し日”というパンフレットを頂きました。

予め、市のゴミ出し日お知らせメールサービス“ごみゼロドットコム”に住所とメールアドレスを市民が登録しておく、**ゴミ出し日に携帯電話がピピッと鳴り、「今日は燃えるゴミを出す日だよ」とか、メールで通報してくれるサービス**です。

これなら、市民がわざわざゴミ出し日カレンダーを冷蔵庫に貼っておく必要も無く、メールの指示通りにゴミを出せばよく、大助かりという訳です。

ゴミ出しのルールを守ることは、このようなメールで催促されるのではなく、住民自らの責任ですべき事ではあります。しかしながら、ひとり住まいの人や、忙しい共稼ぎの人が、便利に利用し、指定日以外にゴミ置き場にゴミが置かれる事が、減らせるのであれば、投資する価値もあろうかと思えます。

メールを使うというのは、行政と市民との付き合い方のヒントではないかと思います。

現状でも茅ヶ崎市の**ホームページ**でゴミ出し日などの情報確認ができます。この場合、行政は待っていて、興味のある人に見てもらおうという、あくまで受身の姿勢です。**興味が無い、関心が無い人には伝わらない**訳です。

しかしながら、**メール**で情報伝達をするという事は、行政が、市民個々の所へ出て行き、**お知らせをする、お願いをする**、というような、能動的な情報発信だという事に注目すべきだと、思います。ですから、ごみ収集日、ごみゼロドットコムが最適なのです。道具としてのメールの使

い方は、これからもいろいろ研究してみる価値がありそうです。

先日、金沢市の担当の方に電話で問い合わせた所、「全国に先駆けて開発したシステムで14年度の10月から運用を開始した」、「この一年間の運用で10,000人をこえる登録者がある」、「開発コストが700万円、運用費用が年間100万円くらい」、「覚えやすいようにと、kanazawa530.com(かなざわ ごみゼロ ドットコム)をドメインネームするなどの工夫をこらした」、「啓蒙活動に利用できる」、「雪などで回収予定が変更になった時の連絡に使えるなどの長所を話されていた」事などを付け加えておきます。

茅ヶ崎市でも、このようなメールサービスを検討しているでしょうか。

市長 本市における導入につきましては、このシステムを利用して提供する情報のあり方等を研究の上、今後の対応を考えてまいりたい。

新国道線への貯留管設置検討について

下水道の整備が進み、浸水被害は以前に比べ改善されている。しかしながら、千の川周辺の浸水被害は、近年、水田が宅地開発され保水能力が低下し、近年の異常気象による集中豪雨から、いまだに浸水被害が発生しているのも事実であります。

国道一号線から小和田で分岐し、本村、茅ヶ崎市文化会館の北側を通り、下町屋で国道一号線とまた合流するバイパス的道路の新国道線が計画されています。

現在、用地買収が一部行われています。この検討区間は千の川の近くの県道遠藤茅ヶ崎線から、愛称一里塚北道とJR相模線をトンネルでくぐり、中央公園の北側を通り、千の川を横切り、愛称梅田通りまでです。

雨水がどう流れるのか想像してみます。砂丘上の国道一号線からの雨水は斜面を下り、周辺の雨水と一緒に、この新国道線の側溝に流れ込む。そして、地下トンネルに集まる。そして、溜まった水はポンプで汲み上げられ近くの千の川に排水される。

ただ、豪雨のときは千の川自体が溢水しているのに、その川に新国道線の雨水を流し込めると、川のどこかでまた溢れる、千の川周辺のいつもの場所が浸水かと想像してします。であれば、川が満水ときは排水をあきらめ、新国道線に溜めたままにするしかない。そしたら、地下道が浸水し通行不能かと、また心配です。

浸水させない為には、千の川近くの既存の公共施設に貯留機能を持たせるという計画に、期待する事になります。ただ、既に完成している場所を工事するのであれば、これからトンネルも掘らねばならない、この新国道線に貯留管を埋けるのも、選択肢のひとつとしてあるのではないかと考えるのです。

<貯留管とは、水を貯める管>



画や河川計画に反映する必要があると考えている。

問 新国道線の浸水対策は十分か

市長 関係部局と調整を図り、雨水強制排水処理や雨水貯留なども視野にいれて、周辺区域に影響を与えない処理方法を検討してまいりたい。

問 土地利用の変化、集中豪雨など、近年の環境変化に対応した、基本的な下水道計画の見直しを行う計画はあるのか。

市長 茅ヶ崎市立病院の東側の市管理公園内の雨水貯留施設の設置や、千の川周辺の小・中学校や公共用地への雨水貯留施設の設置など、千の川周辺区域の浸水緩和につながる下水計画や河川計画の見直しについて検討を進めたい。

問 新国道線に貯留管を埋めることを検討する意味は無いのか

市長 浸水対策の施策のひとつとして検討する意味は十分あると思われませんが、用地買収や技術的な面など課題が残されている状況であり、長期的な施策として検討すべきであるというふうに思っています。

雨水対策につきましては多額な費用がかかるため、今後は費用対効果などの面から総合的に比較検討し、経済的かつ効果的な設置を検討してまいります。

要望 相模川河畔スポーツ公園の移設についても、千の川の河川整備についても、茅ヶ崎市だけでもならない部分がある。国・県に対し、一層の粘り強い交渉をお願いする。

藤沢市の貯留管のように直径3m、長さ約800m総工費約12億円というのものもある。貯留管の直径と長さを変え、貯水容量を最適化する事も可能かと思えます。

浸水する箇所の直近に貯留施設をつくる方がいいとか、もっと上手い方法があるとか、技術的な議論をつくす必要があろうかと思えます。

時間も費用もかかる話で、現実的でないと思うかもしれませんが、将来にわたり新国道線の工事のたびに貯留管を道路の下に埋めてゆくと、最終的に下町屋まで貯留管がつながります。その貯留管を少し先の小出川にまで延ばします。すると、千の川のバイパス雨水幹線が完成します。

別に、そこまでしなくても、千の川の河川整備を行えば、雨水対策は万全である。そうであれば、考える必要もないアイデアでしょう。

浸水被害が発生する。基本は、河川整備である。しかしながら、整備が進まない。だから、暫定的にゲートフラップのような逆支弁を付けるとかの暫定対策をする。それだけでは、雨水のはけ口が無く水が溜まる。だから、遊水池や貯留施設を設ける。そのような話しの展開が本議会でも行われたと認識しています。しかし、逆に、貯留施設を設けた。河川を整備した。もう貯留施設はいらない、無駄になったという事になってしまいます。

別に、今、困っている方達の事を後回しにしてもよいと言っている訳ではありません。

中長期的展望に立ち、いろいろな可能性を十分検討したうえで、目先の対策をすべきだろうと思ひ、議論のひとつとして新国道線の下に貯留管を埋けたらどうだと、提案するのです。

市長 本市の雨水排水の根幹的施設である千の川の整備が最優先課題であると考えている。県管理の一級河川千の川については、梅田橋付近の未整備の護岸整備、また市管理の準用河川千の川については、飯島橋上流部の未整備区間の早期整備が最優先であり、現在も進めている雨水幹線やポンプ場の整備状況および計画との整合を図り、貯留施設の設置について下水道計

手紙による市政アンケート調査から

茅ヶ崎市の手紙による市政アンケート調査結果では、防災放送の聴取状況で“あまり聞き取れない”が42.8%、“全く聞き取れない”が9.1%である。明瞭に聞き取れない人が半数をこえるが、防災に十分なのか検証の必要がありそうである。

利用している情報通信機器・情報サービスでは、携帯電話・PHS(メールも使っている)とパソコン(インターネット接続)の合計が46%ほどである。ケーブルTVは28%である。電子市役所推進計画と共に、議会の映像配信、ゴミだし日メールのように、これら道具を利用した、市からの情報発信については、十分研究する価値がありそうである。